

目 次

	頁
はじめに	5
1. 交通からみた国土の現状と課題	6
地域間格差の是正	
国土の一体化	
複数都府県からなる欧州中規模一国に匹敵する広域的なブロック形成の動き	
複数の市町村にまたがる生活圈形成の動き	
日本列島の時間距離の歪みの拡大	
中山間地域などの国土管理における問題の顕在化	
国際ゲートウェイ機能の競争力低下	
安全・安定面で課題を残す国土空間	
交流連携を重視する国土観の展開	
2. 経済等の変化による国土づくりへの新たな要請	
(特に総合交通に関わりの深い事項)	25
(1) アジアの一員としての日本	25
アジアにおけるわが国の相対的地位の変化	
急がれる『地域ブロック』と東アジア諸国間の連携強化	
(2) 人口減少と少子・高齢化への対応	31
求められる総合的な国土マネジメント	
ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた社会の構築	
定住人口から交流人口への視点の転換	
土地利用の転換にあわせた水辺やグリーンベルトの形成	
(3) 地球環境問題などへの対応	35
CO ₂ 排出量などの一層の削減	
資源循環型社会の構築	
(4) 『二層の広域圏』による新たな国土づくり	36
競争力とアイデンティティを有する『二層の広域圏』で日本の新しい流れをつくる	

600～1,000万人の規模を1つの目安とする『地域ブロック』の形成
 交通1時間圏・人口30万人前後を目安とする『生活圏域』の形成
 『生活圏域の形成に困難を伴う地域』での特性を活かした地域づくり
 モビリティが鍵となる『二層の広域圏』の形成

3. 『二層の広域圏』のための地域マネジメントの基本的方向	40
(1) 『地域ブロック』	40
戦略的な圏域の設定と自立のためのマネジメント計画	
東アジア諸国に開かれた『地域ブロック』の構築	
『地域ブロック』間の交流・連携の促進	
国際的な魅力を備えた『地域ブロック』と拠点都市の構築	
地域の創意工夫を引き出すインセンティブ型の地域振興	
(2) 『生活圏域』	47
地域の多様な特性を活かした『生活圏域』づくり	
人口が減少しても生活レベルを維持する地域づくり	
土地利用と都市機能のコンパクト化	
ユニバーサルデザイン、ユビキタスネットワークに対応した地域づくり	
(3) 『一定のまとまりのある生活圏域の形成に困難を伴う地域』	48
『自然共生地域』など新たな視点による地域づくり	
地域の特性を活かした地域マネジメント	
回復させたい日本の原風景	
4. 『二層の広域圏』を支えるモビリティの視点と基本的方向	53
(1) 『地域ブロック』の国際競争力を高めるモビリティ	53
東アジアゲートウェイ機能の充実	
欧米に対するゲートウェイ機能の強化とフィーダー機能の充実	
国際物流と国内物流の連携強化	
国際ゲートウェイ周辺地域の物流機能の高度化	
東アジア諸国への日帰りが可能となる圏域の成長	

(2) 『地域ブロック』同士が交流・連携し、競い合えるモビリティ	63
ミッシングリンクの解消	
シームレスな移動の確保	
首都圏の空港などにおける容量制約の解消	
環境負荷の小さな交通に	
(3) 『地域ブロック』内のスムーズな人とモノの移動を実現するモビリティ	69
面的なネットワークの形成	
『地域ブロック』の拠点都市などへの日帰り圏の形成	
環状ネットワークの充実などによる拠点都市のアクセシビリティの向上	
高速バスの活用による利便性の向上	
静脈物流システムの確立	
(4) 『生活圏域』の特性を活かしたモビリティ	76
地域に合った交通ネットワークの構築	
地域が支えあう多様な交通手段の充実	
モビリティの向上による『生活圏域』の形成、拡大	
(5) 『自然共生地域』などの交流連携を支えるモビリティ	80
救命救急医療体制などを支援する移動手段の確保	
隣接地域との交流連携の促進	
遠隔地からの格安な移動手段の提供	
離島地域などの交通手段の確保	
今後の展開に向けて	83
(1) 地域情報の収集と発信システムの構築	84
(2) 国土のモニタリングと人、モノの流動の把握と情報提供	84
(3) 予測・評価の充実	85

用語解説	86
二層の広域圏の形成に資する総合的な交通体系に関する検討委員会委員名簿	92
二層の広域圏の形成に資する総合的な交通体系に関する検討委員会検討経過	93